

2013-B					
拠出金・基金の名称		国際農業研究協議グループ拠出金／国際稲研究所(IRRI)			
種別		イヤーマーク      ノン・イヤーマーク			
【拠出先の国際機関名】 国際農業研究協議グループ(CGIAR)／国際稲研究所(IRRI)					
【所管官庁担当局課・室名】 農林水産省大臣官房国際部国際協力課					
【当該任意拠出金の目的・用途等】					
途上国農家が実施可能で、農業生産環境の変化に適応した持続的な農業栽培技術を開発するための研究開発を支援する。					
【最近3年間の我が国支払額及びODA率】					
単位	邦貨 (千円)	外貨1 (千米ドル)	外貨2 (千 )	レート	ODA率(%)
平成25年度	22,845	279	-	1米ドル = 82円	100
平成24年度	35,860	443	-	1米ドル = 81円	100
平成23年度	31,374	353	-	1米ドル = 89円	100
【当該任意拠出金等の意義、成果等に関する我が国としての評価】					
<p>IRRIは、国際農業研究協議グループ(CGIAR)に属する研究機関であり、アジア地域をはじめ世界の多くの地域の基礎食料となっている米の生産増大を目的として設立された。従来から邦人専門家が滞在して共同研究を実施、節水栽培に適した品種改良、栽培技術開発等の成果が生まれている。稲の豊富な遺伝資源を有するIRRIは世界の稲研究の中心的な役割を果たしており、稲に関する研究蓄積を有する我が国と連携を密にすることにより、開発途上国の持続的農業の発展に貢献すると考えている。</p> <p>地球規模の気候変動など、農業生産環境が大きく変化する状況の下、食料の多くを輸入に頼る我が国が世界的な食料安全保障に貢献することは大きな課題である。IPCC第4次評価報告書によると、気温の上昇に伴い、特に低緯度地域で穀物生産性が低下することが予想されている。</p> <p>そのような中で、IRRIへの我が国の拠出金事業として、気候変動の影響を受けやすい天水稲作地帯において、気候変動条件に適したイネの品種と、我が国の開発した気象予測モデルを用いた栽培管理手法を開発し、それらを組み合わせ、小農が利用可能な水稻栽培システムを構築するための研究開発を実施している。</p> <p>本事業は拠出に当たり、研究計画書・予算計画書等について、事前に当方で確認し、最終的に承認することにより、農林水産省としての意見が反映されている。</p> <p>我が国としても本事業をはじめとしたIRRIの取組を高く評価し、人的貢献を含めて可能な協力を行いたい。</p>					